



特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会
会報 第110号 2022年7月5日発行

本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

やっと谷戸の農作業が みんなでできますよ



田植え

この春は久しぶりに谷戸の恵みを多くの来園者に味わっていただきました。穏やかな天気のおかげで、米も野菜も順調に育っています。これから秋まで、草取り草刈りに明け暮れます。

お知らせ

夏休み
イベント

子ども里山体験

8/20(土) 14:00~20:00

(公財) 鎌倉市公園協会協働開催

対象 小3~6年生 15名

谷戸しごと・竹細工・かまどで
夕ごはん作りなど昔ながらの
暮らしの体験をします。

詳細は広報かまくら 8月1日号に
掲載し、(公財) 鎌倉市公園協会にて
申込受付を行います。

山崎の夏まつり 7/17(日)

今年も神事のみで、お御輿は中止となりました。

谷戸往来 1

新茶作り



長年の念願かなって、
八十八夜に新茶を摘んで
手もみしてみました。
やわらかいお茶の香りが
漂い、笑顔があふれました。

谷戸で育てたお茶を飲みたい」という



どこにでもいそうでいないのがドジョウです。谷戸には田んぼに棲むドジョウ（マドジョウ）と水路に棲むホトケドジョウの2種類がいます。県内で珍しくなったのがホトケドジョウですが、鎌倉市内ではドジョウの方が貴重になってきました。緑地は保全されたのに、田んぼがなくなったからです。ドジョウが暮らすには、田んぼなど里山の作業が必要なのです。そこで当会では、昔からある田んぼの耕作だけではなく、周辺の湿地（元は田んぼ）に田んぼの環境を復元する作業、湿地復元を毎年実施しています。「疑似田んぼ」として田んぼに似た環境を少しでも増やそうという目的です。その結果、本来の田んぼには及ばないものの、カエルやトンボが産卵するなどそれなりの成果が出ました。しかし、田んぼとは違った意味で生きものに役立っていることも見えてきました。

ドジョウが増えてきたこともその一つです。もちろん田んぼにもドジョウはいますが、湿地復元をした場所はそれ以上に多いようです。なぜなのか？その理由として湿地復元をして草を抜いた跡は、ドジョウの食料になる草の根など有機物が多く、作業後は有機物の分解も進み、ドジョウの食料が豊富になるのではないかと想像しています。日頃から草取りなど手入れをしている田んぼの泥はきれいです。放任されている池や湿地の泥はヘドロがたまりやすくなります。湿地復元をしている所の泥は、その中間の状態なので、ドジョウなどには最適なのかもしれません。人の関わり方で泥の状態が変わり、生きものにも影響を与えているのでしょう。また、田んぼの区画により生物が違ふのと同じく、湿地復元した場所により個性があるようです。流れ込んでいる水源や周辺の環境の影響でしょう。湿地復元は一年間放置した場所を再生するので、体力と人手を要します。青空自主保育のご家族や学校の協力がなければできません。たまに来る人でも谷戸で作業してくれれば、自然のために役立っているのです。

体験学習

（深沢小5・田うない）正直「そんなのできないよ」と思っていたのですが、入ってみると、「あ、これ楽しい」という気持ちにだんだんとなってきて、田んぼの中でも生きものを探したりしました。

（深沢小5・田うない）私は実際に土に入ったら、自分の足のふとももまで土があり、おどろきました。家に帰ってから、土の深さが気になり、土の入ったところまで足の長さをはかってみました。結果は約55cm！土がそんなに深かったんだとおどろきました。

（富士塚小5・田うない）先生に田んぼを歩くのがうまいとほめられた。8しゅうもしちゃった。

（富士塚小5・田植え）（苗を）12本とりました。2本ずつ植えました。「土から第二かん節分くらいまで深く、稲の苗を植える」と言われたのでやってみたら、思ったよりけっこう深かったです。

（富士塚小5・田うない）先に入った人たちが「ギャーギャー」言っていて、おおげさだなあと考えていましたが、自分が入ってみるとやっぱり「ギャーギャー」言っていました。全身泥だらけになるという体験はなかなかないので、楽しかったし貴重な体験だったと思います。

谷戸往来2

湿地復元 青空自主保育やんちゃお 6/5(日)
にこにこ会 6/19(日)、なかよし会 6/26(日)

膝より深い湿地に入り、根を張る植物を掘り出します。重労働ですが、保育仲間での泥んこ作業はやりがいがあり、毎年「親睦会」として恒例の行事となっています。



稲の多年草化 5月号で報告した、稲の多年草化全国集会で聞いたことを参考に、湧水が流れ込む田んぼを観察したところ、去年刈った株から芽吹いている稲を見つけました。山からの湧水は17℃（6月測定）程度で一定していると考えられ、稲株が凍らず冬を乗り越えたようです。多年草化実験田として見守っていきます。



各班のお知らせ

田んぼ班



蒔で補強するなどして畔を厚くした田で田植えを終了しました。本田脇湿地を開墾した苗代の苗はすばらしい生育でした。皆で勉強してしろかきを二回行った田は、一回の田より抑草効果があるか注視しています。

畑班



周囲から迫りくる雑草。畑の耕作面積を減らさないようにするのに必死です。そうはいっても人手不足と高齢化。いよいよ鎌から刈払機へと草刈り方法の変更を考えるとときが来たのかもしれません。

雑木林管理班



田植えが終了し、土手の手入れから活動を再開しました。土手を含む谷戸の草木、雑草は昨年と同様に元気いっぱいですが、そのエネルギーに圧倒されめよう、頑張って作業に取り組みます。

生態系保全班



広場の水路でクレソンを見つけました。以前は東谷沖の水路でしか確認できませんでした。旺盛な繁殖力で水面が覆われ、在来の植物を駆逐する恐れがあります。まだ経過観察中ですが今後の課題です。



6/1 梅収穫

農芸班



日当たりのよい場所に集中している梅を、枝に気をつけながら竹竿で収穫。収量は少なくても、嬉しさひとしおでした。剪定と堆肥の効果はこれからでしょうか。下漬けまで終え、次回は赤ジソを漬け込みます。

自然遊び班



「里山探検隊」★大きいむかでがでてきたのしかった！(2年)★サヤエンドウをそのまんまたべたのもおいしかった。(2年)★たんぼ仕ごとが、足がぐによぐによして楽しかった！(5年)



5/8 里山探検隊



6/15 野草畑の手入れ

植物育成班



野草畑や土手の手入れを7月中旬頃までに行います。保護している野草を見分けながら手入れをするには、草を見極めることが必要です。初めは苦勞しますが、分かるようになってくると楽しくなってきます。

7月

- 2日(土) 生 夜の自然パトロール ♣
 3日(日) 田 田の草取り
 雑 土手保全のための草刈り ♣
 かまくらレンジャーズ
 4日(月) 畑 にんじんの種蒔き ☆
 9日(土) 生 夜の自然パトロール ♣
 10日(日) 田 田の草取り ☆
 雑 下草刈り ☆
 自 里山探検隊「夏の谷戸しごと」
 13日(水) 畑 さといもの草取り・土寄せ ♣
 17日(日) 田 田の草取り ♣
 雑 土手の草刈り ♣
 20日(水) 農 梅干し作り(赤じそ仕込み) ♣
 24日(日) 田 田の草取り
 雑 雑木林の下草刈り ♣
 講座「湿地復元」 ☆
 試食の日
 31日(日) 田 土手の草刈り、畔の草刈り ♣
 雑 草刈りして水路整備 ☆

8月

- 3日(水) 農 梅干し作り(天日干し) ♣
 7日(日) 田 畔の草刈り ☆
 畑 さつまいもの草取り・つる返し ☆
 雑 アズマネザサの刈り取り ♣
 10日(水) 生 水の生物の観察 ♣
 20日(土) 子ども里山体験
 (公財) 鎌倉市公園協会協働開催
 21日(日) 田 ネット張り
 24日(水) 生 バッタの観察 ♣
 28日(日) 田 ネット張り
 29日(月) 畑 大根畑の耕し、長ねぎの土寄せ ♣

9月

- 3日(土) 田 すがい作り
 4日(日) 田 すがい作り ☆
 雑 刈り払い機で草刈り ♣
 講座「谷戸の植物観察」 ☆
 5日(月) 畑 大根の種蒔き ♣
 7日(水) 植 秋の野草観察 ♣
 農 麦わら細工(しおり作り) ♣
 10日(土) 生 虫の音を聞く ♣
 11日(日) 田 はさ作り(田んぼ横) ♣
 畑 草取り、草刈り ☆
 18日(日) 田 はさ作り(もめんばたけ奥) ☆
 畑 大根の間引き、長ねぎの土寄せ
 25日(日) 田 稲刈り準備、畔の草刈り
 26日(月) 畑 かぶ・冬菜の種蒔き ♣

☆ 谷戸塾 ♣ 里山一日体験

各班活動 農家風休憩舎 9:30 集合 (農芸班は、10時)

夜の自然パトロール: 18:30 山崎口ししいし前集合 20:30 頃まで

田: 田んぼ班 畑: 畑班 雑: 雑木林管理班
 農: 農芸班 自: 自然遊び班
 生: 生態系保全班 植: 植物育成班

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内

TEL/FAX 0467-47-1164 木曜を除く 10 時～16 時

ホームページ: <https://yato-yamasaki.sakura.ne.jp>

Eメールアドレス: ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

● 次号(会報 111 号)は、2022年9月に発行予定

● 会費 郵便振替口座番号 00270-6-115647

